

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number : 09-255520

(43)Date of publication of application : 30.09.1997

(51)Int.Cl.

A61K 7/00

A61K 7/02

(21)Application number : 08-093493

(71)Applicant : POLA CHEM IND INC

(22)Date of filing : 22.03.1996

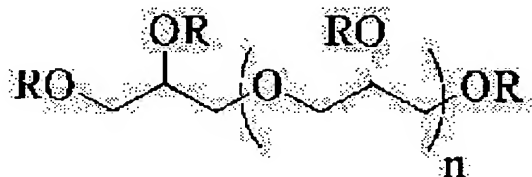
(72)Inventor : SAKAI YUJI
WATANABE HIROSHI

(54) NONAQUEOUS COSMETIC

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To obtain a nonaqueous cosmetic capable of dropping oily stain and simply removing creansing agent itself by combining a non- to low-polar compo nent with a specific surfactant and a polyhydric alcohol at a specific ratio.

SOLUTION: This nonaqueous cosmetic is obtained by combining 40-70wt.% polyhydric alcohol with 10-50wt.% non- or low-polar component, substantially not compatible to the polyhydric alcohol and 1-30wt.% hydrophilic surfactant and optionally 1-10wt.% silica gel. A liquid selected from among an alkyl fatty acid ester, a dialkyldibasic acid ester, a hydrocarbon and a polyglycerin ester of the formula [R is H, a 10-20C acyl; (n) is 0-10, wherein at least 75% of R is an acyl] at 25° C under 1 atm is preferably used as the non- or low-polar component. A noninonic surfactant is preferably used as the surfactant and a polyethylene glycol is preferably used as the polyhydric alcohol.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of extinction of right]

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平9-255520

(43) 公開日 平成9年(1997)9月30日

(51) Int.Cl. ⁸	識別記号	庁内整理番号	F I	技術表示箇所
A 6 1 K	7/00		A 6 1 K 7/00	C
				W
	7/02		7/02	A
				N

審査請求 未請求 請求項の数 7 F D (全 8 頁)

(21) 出願番号	特願平8-93493	(71) 出願人	000113470 ポーラ化成工業株式会社 静岡県静岡市弥生町6番48号
(22) 出願日	平成8年(1996)3月22日	(72) 発明者	酒井 裕二 神奈川県横浜市神奈川区高島台27番地1 ポーラ化成工業株式会社横浜研究所内
		(72) 発明者	渡辺 博 神奈川県横浜市戸塚区柏尾町560 ポーラ 化成工業株式会社戸塚研究所内

(54) 【発明の名称】 非水化粧料

(57) 【要約】

【構成】 多価アルコール40～70重量%と多価アルコールとは実質的に相溶しない非～低極性成分10～50重量%と親水性界面活性剤1～30重量%を含有する非水化粧料。

【効果】 本発明によれば、油性の汚れが落とせて且つ簡便にクレンジング料自体も除去できる、クレンジング用の化粧料が提供できる。

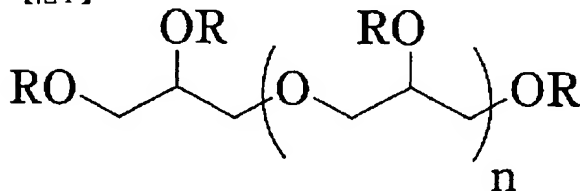
【特許請求の範囲】

【請求項1】 多価アルコール40～70重量%と多価アルコールとは実質的に相溶しない非～低極性成分10～50重量%と親水性界面活性剤1～30重量%を含有する非水化粧料。

【請求項2】 多価アルコールと界面活性剤の大部分が一層に混合した連続相中に非～低極性成分を含む相が分散している剤形であることを特徴とする、請求項1記載の非水化粧料。

【請求項3】 非～低極性成分が、アルキル脂肪酸エステル、ジアルキル二塩基酸エステル、炭化水素、下記一般式(1)に表されるポリグリセリンエステルから選ばれる1種乃至は2種以上であって、1気圧25℃で非～低極性成分全体が液体であることを特徴とする、請求項1又は2記載の非水化粧料。

【化1】



一般式(1)

(但し、式中それぞれのRは同じでも異なっても良く、水素原子又は炭素数10～20のアシル基を表し、nは0～10の整数を表し、且つ、Rはそれらの少なくとも75%が該アシル基であることとする。)

【請求項4】 界面活性剤が非イオン界面活性剤であり、多価アルコールがポリエチレングリコールである、請求項1～3の何れか一項に記載の非水化粧料。

【請求項5】 一般式(1)に表されるポリグリセリンエステルがジグリセリルテトラオレートである、請求項1～4の何れか一項に記載の非水化粧料。

【請求項6】 多価アルコール40～70重量%と多価アルコールとは実質的に相溶しない非～低極性成分10～50重量%と親水性界面活性剤1～30重量%以外に、シリカゲルを1～10重量%含有する、請求項1～5の何れか一項に記載の非水化粧料。

【請求項7】 機能がウォッシュオフ可能なクレンジングであることを特徴とする、請求項1～6の何れか一項に記載の非水化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、クレンジング化粧料に好適な非水化粧料に関する。

【0002】

【従来の技術】クレンジング化粧料は、主に石鹸などの水性洗浄料で落としにくい油性の汚れを落とす目的で開発された化粧品剤形で、油性の汚れを落としやすくするために、液体の油性成分を多く含む形の水油乳化剤形

や油中水乳化剤形のものが広く使われている。しかしながら、これらの剤形に於いては、クレンジング料を使用した後に皮膚上に残る化粧料を洗い流すに当たって、石鹸などの洗浄料が必要不可欠であった。又、炭化水素等の極性の低い油剤が多く用いられているため、このような水性の洗浄料を用いた洗浄によっても皮膚上に残る油性成分が多く、化粧落としをした後も油っぽさが残るのは否めなかった。即ち、油性の汚れが落とせて且つ簡単にクレンジング料それ自体も簡単に除去し得るクレンジング化粧料が求められていた。

【0003】現在化粧料の剤形で、非水化粧料としては、オイルゲル化粧料や多価アルコールなどを用いた非水乳化化粧料等が知られている。しかしながら、多価アルコールを含む連続相中に、エステルやポリグリセリンエステル等の非～低極性成分を分散した剤形の非水化粧料は知られていない。又、このような剤形の化粧料が、ウォッシュオフしうるクレンジング化粧料に好適であることも知られていない。

【0004】

20 【発明が解決しようとする課題】本発明はこの様な状況を踏まえてなされたものであり、油性の汚れが落とせて且つ簡単にクレンジング料自体も除去できる、クレンジング用の化粧料を提供することを課題とする。

【0005】

【課題を解決するための手段】この様な状況に鑑み、本発明者等は油性の汚れが落とせて且つ簡単にクレンジング料自体も除去できる、クレンジング用の化粧料を求めて鋭意研究を重ねた結果、非～低極性成分10～50重量%と界面活性剤1～30重量%と多価アルコール50～70重量%を含有することを特徴とする、非水化粧料がその様な条件を満たすことを見だし、発明を完成させた。以下、本発明について詳細に述べる。

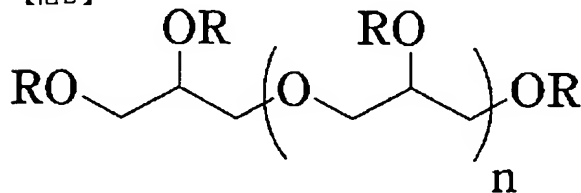
【0006】(1)本発明で用いる非～低極性成分

本発明で用いる非～低極性成分としては、通常化粧料で用いられる非～低極性成分であれば特段の限定を受けずに用いることが出来る。このような非～低極性成分としては、例えば、ホホバ油、オレイルオクタドデカネート、メチルオクタドデカネート、ネオペンチルグリコールジイソオクタネート、イソプロピルミリスレート等の炭素数1～24のアルコールと炭素数1～24のカルボン酸とのエステル、ジエチルアジペート、ジエトキシエチルアジペート、ジプロピルサクシネート等のアジピン酸、コハク酸等の二塩基酸と炭素数1～10のアルコールとのジエステル、一般式(1)に示されるポリグリセリンエステル等が例示できる。これらは全て1気圧25℃で液体であることが望ましく、少なくとも全ての非～低極性成分を加熱混合溶解させたものが1気圧25℃に於いても流動性を有していることが必要である。これらの内、エステル及び二塩基酸エステルは既に市販品がある。又、一般式(1)に表されるポリグリセリンエステ

ルについては多くのものが既に市販されている。又、ポリグリセリネエステルで市販されていないものでも次に示す反応式1に従って、ポリグリセリンをアシルハライドによって、アルカリ存在下、アシル化する事によって容易に製造することが出来る。一般式(1)に表されるポリグリセリンエステルで、好ましいものは、nについては0~4のものであり、更に好ましくは1~3のものである。又、アシル基の種類としては特段の限定はされないが、ポリグリセリンエステルを液体にしやすいものが好ましく、具体的には、オレオイル基、イソステアロイル基、イソパルミトイル基、リノロイル基等が好ましく例示でき、これらの中で、オレオイル基とイソステアロイル基が更に好ましい。アシル基は1分子中で異なったものを有しても良いし、全てが同じでも構わない。本発明に於いて、ポリグリセリンエステルは、ポリグリセリンの水酸基の多くがアシル基で置換されていることが好ましく、具体的には、ポリグリセリンの水酸基の75%以上がアシル基で置換されていることが好ましく、80%以上がアシル基で置換されていることがより好ましく、85%以上がアシル基で置換されていることが更に好ましい。この様なポリグリセリンエステルとして好ましいものを例示すれば、グリセリルトリオレート、グリセリルトリイソステアレート、ジグリセリルトetraオレート、ジグリセリルトetraイソステアレート、ジグリセリルトリオレート、ジグリセリルトリイソステアレート、モノオレオイルトリイソステアロイルジグリセリン、トリグリセリンヘキサオレート、トリグリセリンヘキサイソステアレート、モノイソステアロイルペンタオレオイルトリグリセリン等が挙げられる。これらの内、より好ましいものは、ジグリセリルトetraオレート、ジグリセリルトetraイソステアレート、トリグリセリンヘキサオレート、トリグリセリンヘキサイソステアレートであり、更に好ましいものは、ジグリセリルトetraオレートである。本発明の化粧料に於いて、これら非~低極性成分は唯一種を含有させても良いし、二種以上を組み合わせて含有させても良い。本発明に於いて、高級アルコール以上に極性の高いものは本発明の非~低極性成分にはあたらない。本発明における好ましい非~低極性成分の含有量は、10~50重量%が好ましく、15~40%がより好ましく、20~30%が更に好ましい。

【0007】

【化2】



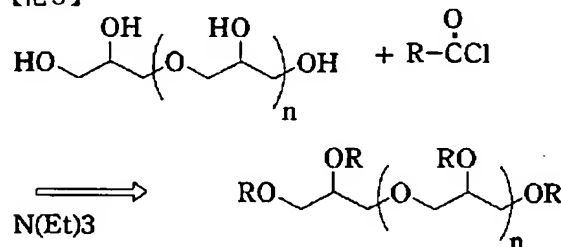
一般式(1)

(但し、式中それぞれのRは同じでも異なっても良

く、水素原子又は炭素数10~20のアシル基を表し、nは0~10の整数を表し、且つ、Rはそれらの少なくとも75%が該アシル基であることとする。)

【0008】

【化3】



反応式1

(但し、式中それぞれのRは同じでも異なっても良く、水素原子又は炭素数10~20のアシル基を表し、nは0~10の整数を表し、且つ、Rはそれらの少なくとも75%が該アシル基であることとする。)

【0009】(2)本発明で用いる界面活性剤

本発明で用いる親水性界面活性剤としては、非~低極性成分に溶けにくく、多価アルコールに溶けやすいものであれば特段の限定はされないが、その大部分が親水性非イオン界面活性剤であることが好ましい。ここで、非~低極性成分に溶けにくく、多価アルコールに溶けやすいとは、非~低極性成分と多価アルコールの二相系に於いて、分配率0.8以上、更に好ましくは0.9以上で多価アルコールに分配することを意味し、非イオン界面活性剤に於いては、HLBが13以上、より好ましくは15以上、更に好ましくは16以上のものが挙げられ、具体的には、POE(20以上)脂肪酸エステル、POE(10以上)アルキルエーテル、POE(20以上)付加硬化ヒマシ油、POE(20以上)ソルビタン脂肪酸エステル、POE(20以上)POP(3以上)アルキルエーテル、POE(20以上)グリセリル脂肪酸エステル等が例示できる。更に、親水性非イオン界面活性剤以外の、本発明の本発明の効果を損なわない範囲に於いて、化粧料に含有しうる界面活性剤としては、ソルビタン脂肪酸エステルやポリグリセリンモノ脂肪酸エステル等の親油性非イオン界面活性剤、アルキル燐酸エステル等のアニオン界面活性剤、アルキルベタイン等の両性界面活性剤等が例示できる。本発明の化粧料における、界面活性剤の好ましい含有量は、1~30重量%であり、3~20%がより好ましく、5~15%が更に好ましい。尚、本発明の界面活性剤は、活性剤を全て混合した状態で、常温常圧下で液体乃至は半固体のものが好ましい。

【0010】(3)本発明で用いる多価アルコール

本発明で用いる多価アルコールは、通常化粧料で用いられているものであれば特段の限定を受けずに用いることが出来る。この様な多価アルコールとしては、例えば、プロピレングリコール、グリセリン、1,3-ブタンジ

オール、ポリエチレングリコール、ソルビトール、マルチトース等が例示できる。これらの内好ましいものは、ポリエチレングリコールであり、平均分子量としては200～500のものと1000～2000のものを混合して用いるのが好ましい。好ましいこれらのものの混合比は、平均分子量が200～500のものがポリエチレングリコールの総量の60～90重量%になるように混合するのが好ましく、70～90重量%がより好ましく、75～85重量%が更に好ましい。本発明の化粧料における多価アルコールの好ましい含有量は、40～70重量%であり、53～67重量%がより好ましく、55～65重量%が更に好ましい。

【0011】(4) 本発明で用いるシリカゲル

本発明で用いるシリカゲルは、必須な成分ではないが、このものを含有させることにより系の安定化がはかれるため、含有することが好ましく、本発明で用いることの出来るシリカゲルとしては、化粧料で通常用いられているもので有れば特段の限定を受けずに用いることが出来る。又、親油化処理や親水化処理されたものを使用することも可能であるが、無処理のものをを用いることが好ましい。又、その粒径は1～10000ミリミクロンのものが好ましく、1～1000ミリミクロンのものがより好ましく、1～100ミリミクロンのものが更に好ましい。この様なシリカゲルは、サイリシア320（富士シリシア製）やアエロジル200（日本アエロジル社製）等の様に既に市販されている。表面処理は、ハイドロジェンメチルポリシロキサン等の焼き付けや、金属石鹸処理、燐酸塩処理等が例示でき、これらは常法に従って行えばよい。シリカゲルを含有させる場合に於いて、本発明に於けるシリカゲルの好ましい含有量は0.1～10重量%であり、0.5～5重量%がより好ましく、1～5重量%が更に好ましい。

【0012】(5) 本発明の化粧料

本発明の化粧料は、上記非～低極性成分10～50重量%と界面活性剤1～30重量%と多価アルコール40～70重量%を含有することを特徴とする、非水化粧料である。これに、1～5重量%シリカゲルを含有させることが更に好ましい。本発明の化粧料は、後記実施例に示す如く、油性の汚れを落とす作用に優れているにもかかわらず、そのもの自体も容易に水や温水で洗い流せる故*

(1) ポリエチレングリコール400	50
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
POE(60)硬化ヒマシ油	3
POE(20)オレイルエーテル	5
POE(20)ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	20

【0015】例2

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加

*に、クレンジング料として好適である。ここで、非水化粧料とは、原料の不純物として以外に水を含まない化粧料で、原料の不純物としての含水は許容される。しかし、この様な原料由来の水であっても、5重量%を越えて含有することは許されない。又、本発明の非水化粧料は、図1に示す如く、界面活性剤と多価アルコールとシリカゲルを含む連続相に非～低極性成分の液滴が分散している状態であって、通常知られている非水乳化や液晶とは異なった相を示す。この様な相の状況を取る故に、油性の汚れ成分を溶解し、且つ、ウォッシュオフする事が可能である。本発明の化粧料は通常の方法により製造することが出来る。即ち、界面活性剤と多価アルコールとシリカゲルとを加熱溶解分散した中に、予め加熱しておいたポリグリセリンエステルを徐々に加え、攪拌しながら冷却すればよい。本発明の化粧料は前述したようにクレンジング化粧料として好適であるが、クレンジング料ほどではないにせよ、他の化粧料にも好適であるので、この様な形態の化粧料をマッサージ料やパック料等に用いることも本発明の範囲に属する。更に本発明の化粧料では、通常化粧料で用いられる水以外の任意成分を、本発明の効果を損ねない範囲に於いて、含有することが出来る。この様な任意成分としては、ワセリンやマイクロクリスタリンワックス等のような炭化水素類、ゲイロウやカルナウバワックス等のエステル類、牛脂、グリセリルトリステアレート等のトリグリセライド類、セタノール、オレイルアルコール等の高級アルコール類、ステアリン酸、オレイン酸等の脂肪酸、エタノール、カーボポール等の増粘剤、防腐剤、紫外線吸収剤、抗酸化剤、色素、粉体類等が挙げられる。

【0013】

【発明の実施の形態】以下に例を挙げて、発明の実施の形態について詳細に説明するが、本発明がこれら例のみに限定を受けないことは言うまでもない。尚、数値は重量部を表す。

【0014】例1

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(5)

特開平9-255520

7	8
(1) ポリエチレングリコール200	30
ポリエチレングリコール1540	10
サイリシア320	5
POE(45)ステアレート	5
グリセリンPOE(20)オレート	5
POE(6)ソルビタンセスキオレート	5
(2) ジグリセリンテトライソステアレート	25
ホホバ油	15

【0016】例3

*熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレ

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成し 10 ンジング化粧料を得た。

た。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加*

(1) ポリエチレングリコール400	30
1, 3-ブタンジオール	20
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
POE(60)硬化ヒマシ油	3
POE(20)オレイルエーテル	5
POE(20)ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	10
トリグリセリンヘキサオレート	10

【0017】例4

※熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレ

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成し ンジング化粧料を得た。

た。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加※

(1) ポリエチレングリコール400	50
ポリエチレングリコール6000	15
エアロジル200	2
POE(60)硬化ヒマシ油	5
POE(20)オレエート	5
POE(20)ソルビタンモノイソステアレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	10
デカグリセリンドデカオレート	10

【0018】例5

★熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレ

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成し ンジング化粧料を得た。

た。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加★

(1) ポリエチレングリコール200	50
ポリエチレングリコール6000	15
サイリシア320	4
POE(100)硬化ヒマシ油	3
POE(20)ラウリルエーテル	5
POE(20)ソルビタンモノステアレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	10
ヘキサグリセリンオクタイソステアレート	10

【0019】例6

☆熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレ

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成し ンジング化粧料を得た。

た。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加☆

(1) ポリエチレングリコール400	50
ポリエチレングリコール1540	15
エアロジル200	4
ラウリルリン酸ナトリウム	3
POE(20)オレイルエーテル	5

(6)

特開平9-255520

9	10
POE (20) ソルビタントリオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	10
トリグリセリンペンタオレート	10

【0020】例7

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加*

*熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(1) ポリエチレングリコール400	50
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
ラウリルベタイン	3
POE (20) オレイルエーテル	5
POE (20) ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	20

【0021】例8

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加※

※熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(1) ポリエチレングリコール400	40
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
POE (60) 硬化ヒマシ油	3
POE (20) オレイルエーテル	5
POE (20) ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	10
ホホバ油	20

【0022】例9

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加★

★熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(1) ポリエチレングリコール400	40
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
POE (60) 硬化ヒマシ油	3
POE (20) オレイルエーテル	5
POE (20) ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	20
ホホバ油	10

【0023】例10

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加☆

☆熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(1) ポリエチレングリコール400	40
ポリエチレングリコール1540	15
サイリシア320	4
POE (60) 硬化ヒマシ油	3
POE (20) オレイルエーテル	5
POE (20) ソルビタンモノオレート	3
(2) ジグリセリンテトラオレート	30

【0024】例11

以下に示す処方に従ってクレンジング化粧料を作成した。即ち、(1)と(2)の成分をそれぞれ80℃に加◆

◆熱し、(1)に(2)を徐々に加え、攪拌冷却し、クレンジング化粧料を得た。

(1) ポリエチレングリコール400	40
ポリエチレングリコール1540	15

(7)

特開平9-255520

11
POE (60) 硬化ヒマシ油
POE (20) オレイルエーテル
POE (20) ソルビタンモノオレート
(2) ジグリセリンテトラオレート
ホホバ油

12
3
5
3
30
4

【0025】

【実施例】以下に実施例を挙げて本発明の効果について詳細に説明する。

【0026】実施例1

クレンジング機能の評価

専門パネラー5名を用いて、例8～10のクレンジングについて、クレンジング機能の評価した。即ち、上腕内側部に口紅を塗布し、その落とし易さについて、++：良く落とせる、+：落とせる、±：やや落とせる、-：落としにくい基準で評価した。対照として、従来のクレンジング（対照1、処方1）、ジグリセリンテトラオ＊

（処方1）

流動パラフィン
セタノール
セチルステアレート
POE (45) ステアリン酸エステル
POE (20) ベヘニルエーテル
ソルビタンモノステアレート
プロピレングリコール
塩化ベンザルコニウム
水

40重量部
3重量部
5重量部
3重量部
3重量部
3重量部
10重量部
0.1重量部
32.9重量部

【0028】

【表1】

サンプル	++	+	±	-
例8	2	3		
例9	5			
例10	3	2		
対照1		3	2	
対照2		5		

30

	例8	例9	例10	対照2
安定性	△	○	○	×

【0029】実施例2

安定性

例8～9、及び実施例1の対照2について、40℃、1ヶ月における安定性を調べた。結果を表2に示す。○は異常無し、△はやや離しょう、×は分離を表す。この表より、ポリグリセリンエステルを用いることにより安定性が向上していることが判る。

【0030】

【表2】

* レートをオレイルアルコールに置換したもの（対照2）を用いた。評価は、++：良く落とせる、+：問題なく落とせる、±：やや落としにくい、-：落としにくい4段階で行った。結果を表1に示す。これより、本発明の化粧料がクレンジング機能に優れることが判る。又、クレンジング機能を発揮するためには、非～低極性成分の含有量が20重量%近辺が好ましいこと、即ち、この含有量は10～30重量%が好ましく、15～25がより好ましく、18～23が更に好ましいことが判る。

【0027】

【0031】実施例3

クレンジング機能

例1～7について、専門パネラー1名を用いて、実施例1と同様にクレンジング機能を調べた。結果を表3に示す。これより、本発明の化粧料は何れもクレンジング機能に優れることが判る。

【0032】

【表3】

	例1	例2	例3	例4	例5	例6	例7
評価	++	++	+	++	++	++	++

40

【0033】実施例4

ウォッシュオフ機能

例1～10及び対照1についてウォッシュオフ機能を調べた。即ち、検体0.05gを上腕内側部に塗布し、温

50

水を流し塗擦して、軽く水を拭き取った後、官能評価により、化粧料の残り具合を評価した。評価基準は、
 +：残らない、++：やや残るが問題なし、+++：残るが概ね問題なし、-：残り感があり、気持ちが悪い、であった。結果を表4に示す。これより本発明の化粧料は従来*

*のクレンジング化粧料に比してウォッシュオフ機能に優れることが判る。

【0034】

【表4】

例1	例2	例3	例4	例5	例6	例7	例8	例9	例10	対照1
++	++	++	++	++	++	++	++	++	++	-

【0035】実施例5

安定性

例1の化粧料のシリカゲルを珪酸カルシウムに置き換えたもの（対照3）、タルクに置き換えたもの（対照4）、ベントナイトに置き換えたもの（対照5）を作成し、40℃1ヶ月の安定性を実施例2と同様に測定した。結果を表5に示す。これより、シリカゲルは安定性を向上させていることが判る。

【0036】

【表5】

	例1	対照3	対照4	対照5
評価	○	△	×	△

※【0037】実施例6

マッサージ料としての評価

例1～10の化粧料を用いてマッサージをしてもらい、専門パネラーにその適性を判断してもらったところ、問題なしと言うことであった。これより、本発明の化粧料は、クレンジング化粧料として大変好適であるが、その用途はクレンジング化粧料のみに限られないことが判る。

20 【0038】

【発明の効果】本発明によれば、油性の汚れが落として且つ簡便にクレンジング料自体も除去できる、クレンジング用の化粧料が提供できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】 本発明の化粧料の顕微鏡写真である。

※

【図1】

